

琵琶湖湖底ごみ分析調査

実施日：令和2年11月1日（日）

主催：赤野井湾再生プロジェクト 調査地点：赤野井湾

作業人数：約80人（胴長班） 作業時間：1時間半

【調査目的】

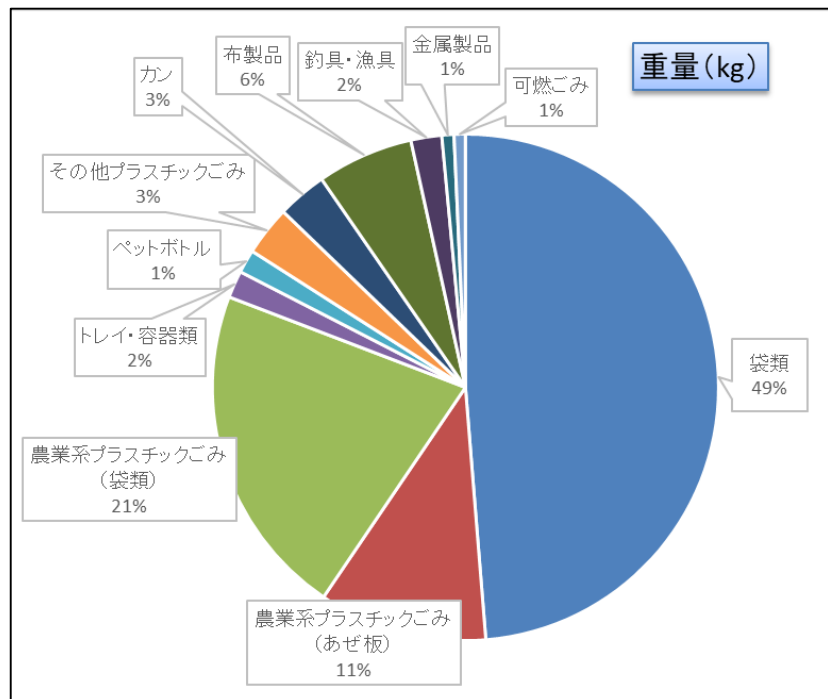
赤野井湾は、近年ごみの流入や水草の繁茂、水質汚濁など様々な課題を抱えており、河川から流入するごみが湖底へ堆積され続けていることが問題視されてる。

そこで、市内河川から流入するごみの量や種類を分析するため調査を行う。また、近年問題とされているマイクロプラスチック問題の効果的な削減対策等を検討するため実施する。

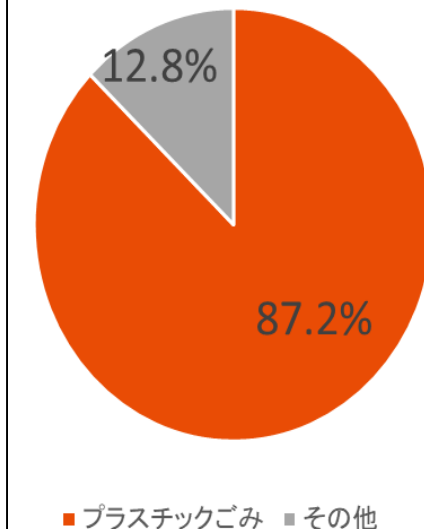


【調査結果】

- ✓ごみ全体にて合計167kgのごみを回収 ※木材・流木は除く（内プラスチックごみ145.9kg）
- ✓全体ごみ重量の内、プラスチックごみの割合は87.2%を占める（前年度調査73.4%）
- ✓ごみの重量比は、袋類（農業系袋類を含める）が全体の約6割を占める。（袋類：計2,268枚）
- ✓農業系ごみの重量比は袋類・あぜ板を合わせると32.1%を占める。
- ✓製造年月が1980年代頃と推定される、ごみも回収される。



プラスチックごみの占める割合



	重量(kg)	重量(%)	数量
袋類	81.5	48.7%	2,130
農業系プラスチックごみ(あぜ板)	18	10.8%	
農業系プラスチックごみ(袋類)	35.7	21.3%	138
トレイ・容器類	2.9	1.7%	143
ペットボトル	2.5	1.5%	67
その他プラスチックごみ	5.3	3.2%	100
カン	5.3	3.2%	147
ビン			
布製品	10.3	6.2%	
釣具・漁具	3.3	2.0%	
金属製品	1.3	0.8%	
ガラス製品			
可燃ごみ	1.2	0.7%	11
合計	167.3	100.0%	2,736
プラスチックごみ	145.9	87.2%	
その他	21.4	12.8%	

※木材・流木ごみを除く

作業手順

❗ 水深は大人の膝上ぐらい、肉眼でも湖底に沈むごみが確認できました。ただし、作業中は泥が舞い上がり、手探りでごみを回収することとなりました。レーキを入れるといたるところでプラスチックごみが出てくる状況でしたが、ペットボトルや空き缶はレーキでは回収が難しく、回収量は少ない結果となりました。

- ① 作業地点へ移動（赤野井湾：法竜川河口）
- ② 胴長を着用し、レーキにて、湖底のごみを回収
- ③ ごみを洗浄（付着している泥を水浄ポンプにて洗い落とす）
- ④ 洗浄したごみを各分類ごとに分別
- ⑤ 各種ごみの重量を測定、また袋類などについてはごみの数量を数える



① 移動

② 湖底ごみ回収

③ ごみ洗浄



④ ごみ分別

⑤ ごみ測量および集計

ごみの分類



袋類



農業系ごみ（肥料袋・あぜ板）



トレイ・容器類



カン・ペットボトル



釣具



破碎ごみ



木材・流木

調査結果

！ 守山市内から流れるごみの84%※がプラスチックごみであるとの調査結果があり、これらのごみの大部分が市内河川から琵琶湖へ流入していることが分かります。

※「守山市河川ごみ調査報告書」データより

各種ごみを分類した結果、袋類（ビニール袋）が最も多く回収される。今回の調査では、計2,130枚（重量81.5kg）のビニール袋が見つかった。

農業系ごみプラスチックごみは全体回収量の32.1%を占める。

- ・ 肥料袋 138枚
- ・ あぜ板 18kg が回収される。

湖底ごみの中からは製造年月が1980年代頃に捨てられたと推定されるごみが見つかる。湖底では、ごみが長い年月をかけて何層（ミルフィーユ状）にもなって堆積され続けている。

